

## 最高学部

### 世界体操祭 (World Gymnaestrada) 参加報告

早野曜子

最高学部学生有志23名とデンマークのTA1名は2023年7月30日～8月5日にオランダのアムステルダムで開催されたThe 17<sup>th</sup> World Gymnaestrada (以下世界体操祭)に参加した。4年に一度開催されるこの大会は、FIG(世界体操連盟)が主催し、日本からは12チームが参加した。自由学園はこれまで2015年、2019年と2回参加している。今回新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより開催も危ぶまれたが、予定通り開催され参加することができた。コロナ禍に普及したオンラインによる交流のお陰で、2022年にデンマーク体操TAとして来日していたHannahさんとZoomで繋がりながらプログラムを考え、現地で合流しチームとして出場することができた。詳細は「生活大学研究9号」<sup>1</sup>に掲載している。

#### 1. はじめに

##### 自由学園とデンマーク体操

自由学園では1930年からデンマーク体操を体育に取り入れ、実践してきた。1934年には日本人女性として初めて2名の卒業生がデンマークにあるオレロップ国民高等体操学校(以下オレロップ)へ留学し、帰国後学園の体操教育の基を築かれた。

その後90年以上に亘り交流は継続しており、これまで38名のデンマーク体操指導者が来校し、体操指導するとともに、学園からは70名以上が留学している。

##### 世界体操祭(World Gymnaestrada)について

1953年に第1回大会がオランダ・ロッテルダムで開催された。1回大会は14カ国、5000人の参加者であった。以降4年に一度ヨーロッパで開催されている。

##### 大会の主旨

FIG(世界体操連盟)は競技スポーツ(体操競技・新体操・トランポリン・エアロビクス・パルクール)とGymnastic for All 一般体操の2部門があり、この大会は「競わない体操の世界大会」としてFIGが主催している。

##### 大会の目的

“世界体操祭は、社会的(年齢、性別、国籍)、身体的(技術、フォーム)の両レベルにおいて、他の誰かよりも優れていることよりも、多様性、協力、コミュニティを称賛することに焦点を当てた世界観を社会に広める上で重要な役割を果たしている”とされる。

大会の特徴として、「参加者が全力を尽くすにも関わらず、メダルが授与されないこと。参加者が楽しみ、他の参加者

も楽しめるようにすることが、大きな利点」

－FIG Gymnastics for All 部門 ロジェリオ・ヴァレリア会長－

#### 2. 第17回大会概要

期間 7月30日～8月5日

場所 オランダ・アムステルダム

会場 RAI 及び オリンピックスタジアム

参加国 60の国と地域

参加チーム 487チーム

人数 約19,000人 ボランティア 375名

(スイス3453人 ドイツ3000人 オランダ600人)

参加年齢 0-93歳

日本の参加チーム 12チーム (うち大学生は以下)

筑波大学 日本体育大学 新潟大学 駿河台大学

自由学園<sup>2</sup>(FIG,2023-12-30 参照)

#### 3. 参加学生

学部1年

栗田ちさと 高倉かおり 西理恵 山下真生

学部2年

伊藤碧菜 内田颯 梅崎花子 奥貫堅 各務吏織

加納千颯 白鳥薫 高木好 藤井俊英 牧島万桜

眞鍋志麻 丸原歩 三田村知興 山田周太郎 芳原爽

学部3年

大串千里 高田和美 田村泰子 増本圭佑

現地参加 Hannah K Holm (2022デンマーク体操TA)

引率 早野曜子

#### 4. 事前準備

2022年秋 参加者募集

2022年12月5日 2023年1月からの練習及び演技のイメージ・構成・曲など相談。2023年3月6日練習開始。

春休み中 3/30・4/2,5,8.

4月から週3回(月・水・木)18:30—19:30 練習

3月18日ーハンナとZoomで演技について相談。

3月24日 チーム紹介文提出。

集中練習 5/1.2 記念体育館 5/3-6 初等部体操館

5月12日 男子パート演技変更あり

出発前練習 7/22.23.24.25 初等部 10:00-13:00

出発前演技発表

1回目 5月17日(水) 友の会大会発表(大芝生)

2回目 6月3日(土) 協力会総会発表(記念講堂)

3回目 6月10日(土) 最高学部保護者会発表(初等部)

4回目 7月12日(水) 女子部・男子部むけ

### 5.大会期間プログラム.

7月30日(日) 開会式

7月31日(月)1回目グループ演技発表 16:00-

8月1日(火)体操見学 市内見学

8月2日(水)World Team リハーサル

World Team 演技発表 13:40-14:00

2回目グループ演技発表 16:40-

8月3日(木)体操見学 自由行動

8月4日(金)3回目グループ演技発表 15:40-

8月5日(土)World Team リハーサル 13:00-16:00

World Team 演技発表 16:00-18:00

閉会式中でパフォーマンス

### 6.演技について

#### 3.1 演技タイトル “WA”

日本語の“わ”には多くの意味が含まれる。

日本人を表す和、平和の和、調和の和、対話の話、円を意味する輪など。JIYUGAKUEN チームは日本人とデンマーク人からなるチームである。日本の文化とデンマーク文化の調和を曲と動きで表現した。

#### 3.2 演技内容・構成

演技は7パートから構成し、デンマークのハンナ・クリスチャンが振り付けた演技(Part2,4,7)と学生たちが振り付けた演技(Part1,3,5,6)で構成した。

Part 1 デンマーク体操人との和(演技者と観客)  
(振付日本) 男女 曲:SAVE、RISING

Part 2 男子 (振付デンマーク)

男子徒手 曲名 Stronger Than

Part 3 手具 布(日本の所作・色目)オタ芸 (振付日本)  
男女 百花繚乱

Part 4 女子手具 クラブ(振付デンマーク)  
女子手具 Oceans

Part 5 和踊り(だるまさん転んだ・盆踊りの要素)  
(振付日本) 男女徒手 Grassland

Part 6 ダンス・転回 (振付日本)  
男女ダンス Run boy Run

Part 7 デンマーク体操(ダンス) (振付デンマーク)  
男女 Don't Forget My Love 合計 14'04”



6-1 演技発表の様子

### 7. 大会参加意識調査

今回参加した自由学園チームは、普段からクラブ活動として体操を行なっているわけではない一般学生が世界体操祭を経験してみたいという希望で集まり、チームを結成した。

大会参加動機、大会参加を通じた意識変化について大会前と参加後の意識調査を実施した。

#### 大会への参加動機

海外に行きたい 33%

イベント参加希望 26%

体操が好き 21%

みんなで体操したい 10%

人に勧められた 10%



7-1 開会式パレードの様子

### Q1 予想した大会と、実際に違ったことは、何でしたか？

- ・会場の規模は予想以上の大きさと、観客の盛り上がり具合も予想以上でした。
- ・体操以外の事柄への気付きについてです。体操に関することは何かと様々な良い経験ができるだろうと思っていたのですが、オランダの街並みや海外の人の雰囲気など体操以外の事柄の気付きも多く、その点が期待していたことと経験したこととの違いでした。
- ・思っていたよりたくさんの人とのコミュニケーションがとれたこと。英語があまりできないので、できても数人と話すことができる程度だろうと思っていた。
- ・人との距離の近さ。目が合っただけで名も知らない誰かと仲良くなれるようなところ。私たちの演技に対しての盛り上がり方、盛り上がるポイント。例えば rising の最初で走りながら円を描くところなどは日本では何も反応がなかったが海外からの反応はすごくよかった。
- ・体操祭についてあまり想像がついておらず特に何かを期待して行かなかったため、想像以上に人と交流する機会があったことにとても驚きました。
- ・行く前に期待していた体操祭はいろいろな国、主にデンマークの演技を見ること、楽しんで演技ができること。実際に経験して、想像していたより多くの国の演技、多くの国と人との交流が頻繁に、常に自分と合ったこと。そして、期待の何倍も会場が盛り上がり、想像の何倍も演技をしている時が楽しかった。
- ・すごくアットホームな場所で私たちが演技をしている場にいた全員が、私たちがこの場で演技していることを歓迎してくれて温かく迎えてくれたところが違った。少しくらい様子見の感覚で厳しい人がいると思っていたので驚いた。
- ・たくさんの年代の人がただただ体操を楽しんでいた。上手下手も関係なく、楽しむことが一番な会だった。すごくフレンドリーな人が多くてジャージ交換も色々な人とできた。本当に順位とか一切なかった。

### Q2 Q1 の違いの理由は、何だとおもいますか？

- ・日本だと、あまり声を出して喜ぶ、ノリノリになるという人が少ないというふうに感じました。規模を小さく見積もっていたのは、日本体操祭ぐらいの規模だと勝手に思っていたからです。
- ・日本で発表する機会があった時よりもオランダに来て発表した時の観客の歓声の方が大きく、それは全く想像していなかったのが、嬉しい誤算だった。

・参加者の皆さんがとてもフレンドリーで、たくさん話しかけてくれたので、こちらから行かなくても、たくさん交流することができた。さらに、拙い英語でも話せたことに自信がついて、自分から話しかけることもできた。

・体操が好きな人や、そうでなくてもこの体操祭に出ると同じ目的を持った人たち同士が集まっている空間だから、シンパシーを感じやすかったり、同じ空気を吸って濃い共通体験があることによって自然と距離は縮まっていくのかなと思った。また、身体表現をしているので、繋がるツールも踊りだったり鼻歌だったり手拍子だったり、物理的な距離も近くなりやすいことがありそう。

・日本という国を想像でしか知らなかった人や、イメージを持っていた人も、私たち日本人とはまた異なる感覚(例えばスペインの人がフラメンコを踊っているのを私たちが見ている時と同じような)を持っているから。

・行く前に体操祭がどのようなものか想像がついていなかった。想像の何倍も演技が楽しかった理由は、やはり会場の盛り上がり、見てくれる方の視線、チームの一体感、スポットライト、全てを最大限に感じられたからだと思う。

・私たちが「体操をする」という概念がそもそも違うと思う。自由学園にとっては演技をする、ということであり体操をする、ということとは少し違う。そもそも私たちが世界体操祭で発表したのは演技発表ではあるが発表したものは体操である。演技、というと表情や立ち位置、移動まで全て含めて演技、という感じがする。私たちが行なった演技発表で「体操」とあまり言わなかったのは体操という概念がみんな違うことに誰かが気付いたのではないかなと思う。

・その場に行ってみて初めて感じることはばかりで体験する全てが刺激的だった。

・みんな心から体操が好きだから、楽しめたらそれでいいという精神。間違えても何の問題もないし、それに対して何かを言ったり言われたりもしない環境があった。

### Q3. 様々な体操を見て気がついたことは、何ですか？

・(自分たちは)体操を専門に学んでいる学生ではないのに、ここまで完成度を上げられた私たちは凄いなと思った。でも、専門でやっている人達はやはり段違いに凄かった。動きが揃っているのは、息が揃っているのだと感じた。全員が良いものを作ろうと真剣に取り組んでいることが伝わる演技だった。

・上手か下手か、得意か不得意か、そんなものは関係ない。好きで、やりたいからやっている、それだけで十分だという

こと。どのチームを見ている、自分たちの演技に対しての誇りがあるように感じた。ルーツから来るもの、練習を積み重ねてきたから出るもの色々だった。

・体操にはその国の大事にしている歴史や考え方が現れているということ。音楽性や身体の使い方、パフォーマンスを通して人に何を伝えたいかという部分がそれぞれの国でかなり異なっているように感じました。

・性別、年齢関係なく誰でもできること。体操にもいろんな種類があって、国士館のような団体がピシッと揃えるものもいるが、動きはズレていても皆が楽しそうなものもいる。



7-2 大会会場で世界中のチームと一緒に

#### Q4. 貴方にとって「体操」とは何だと思いますか

・体操には色々な要素があると感じた。体を動かす事の楽しさや皆んなで揃える事の難しさ、メンバーとのイメージの共有など色々あるだろう。しかし体操とは何かということを考えた時に一番私が思う事は「体を動かして何か伝える」という事に国境や言葉はいらない」という事である。自分自身の演技や他の人の演技を見て、凄いとせば自然に歓声が出るし拍手もする。それらの事は映画や舞台などの言語を必要とするものでは絶対にあり得ない事であると思う。自分たちが本当に楽しんでいたり真剣にやっているという事は相手にも伝わるし、自分も感じるのだという事を今体操祭を通じて体感する事ができてよかった。

・エネルギーの源・自分がいちばん自分という存在を表現できるもの

・体操祭を通して演技するのも見るのも見られるのもとても楽しかった。身体表現であることのほかに「楽しい」という感情が加わった良い経験だった。

・体をのびのび動かすこと・自分と向き合うためのツール  
人と繋がるためのツール 誰でも練習できるもの  
・大勢で笑い合いながらするもの。体操には決まりはなく、どのようなものでも良い。



7-3 World Teams 演技前

#### 最後に

参加した学生たちは、最高学部進学後もコロナ禍により、一緒に身体を使った活動が制約されていたこともあり、練習期間も健康状態の管理に気をつけながら過ごした。加えて、2022年2月にはロシアのウクライナ侵攻が始まり、ヨーロッパ情勢も緊張を増した。アムステルダムにはアンネ・フランクの家など、第2次世界大戦の跡が街の中に残されている。大会最終日にある学生が「アムステルダムに来てみて、80年前戦っていた敵同士の国がこの大会で体操を通して友情を育んでいる。この世界体操祭は平和な時でなければできないものだと実感した。」という意の感想を述べていた。

「世界体操祭は、社会的(年齢、性別、国籍)、身体的(技術、フォーム)の両レベルにおいて、他の誰かよりも優れていることよりも、多様性、協力、コミュニティを称賛することに焦点を当てた世界観を社会に広める上で重要な役割を果たしている。」

アンジェラ・ヴィヒマン<sup>3</sup> (Marco et al.2023)

このことを学生が肌で感じたことに、大会参加の意義を改めて実感した。

またオランダは、レンブラント・フェルメール・ゴッホなど数多くの画家を生み出した国である。開会式の中で、国立

美術館の館内で名画の横で体操をする少女たちの姿が映し出された。

体操が体育館やスタジアムで行われる“スポーツ”という領域をこえ、身体表現として絵画と共に芸術として文化に根ざしていることを実感した。体操の身体文化を芸術の領域で捉えることは、運動としてだけでなく、体操の持つもう一つの教育的意義である。

世界体操祭は非競争の大会であり、優勝を競ったり、技を競うものではない。

World Gymnaestrada に参加する参加者について、2019年のオーストリア大会参加者を対象にスイス・ドイツ・ブラジルによる合同調査が行われた<sup>4</sup>(Jane Mechbach(2011))。

その結果、参加を動機付ける要因として「社会的関係」「技能開発」「健康管理」などが抽出されている。参加回数や年齢により動機づけ要因は異なる結果となった。またこの大会への参加に最も関連する要因は内発的動機づけであり、これは世界体操祭が非競争的であることを裏付け、この体操祭に参加する人がさまざまな興味を持っていることが明らかとなった。

大会参加を通し、学生が体操の多様性を実感し、平和との関係に気づくことができる感性に教師として大きな喜びを感じた。

世界情勢や感染症のリスク、そして経済的にも大きな負担がある中、学生を送り出してくださった保護者、学園関係者に心から感謝の意を表したい。

なおこの報告は生活大学研究9号に掲載した「世界体操祭を通した国際理解」をもとにまとめたものである。

#### 参考文献

1 早野曜子 「世界体操祭を通した国際理解」『生活大学研究』9巻1号 2024年

<sup>2</sup> FIG Gymnastics for All

<https://www.gymnastics.sport/site/discipline.php?disc=1>

<sup>3</sup>Marco Antonio Coelho Bortoneto et al. (2023)

“World Gymnaestrada: reasons to join a massive gymnastics festival” Journal of Physical Education and Spots.

“ Vol.23(issue 3),Art93pp.756-763.ISSN:2247-806X

<sup>4</sup>Jane Mechbach(2011)

“The World Gymnaestrada—a Non-Competitive Event” SCANDINAVIAN SPORT STUDIES FORUM, ISSN2000-088x, VOL.2,2011,pp.88-118